



## 文化創造的ライブラリー

### 東京都 千代田区立日比谷図書文化館

#### 基本データ

所在地	千代田区日比谷公園 1-4
職員数	108 人
うち司書数	17 人
	※職員数のうち図書部門は 28 人
蔵書数	224,683 冊
利用登録者数	29,980 人
年間貸出冊数	170,208 冊
	(児童用図書貸出数 1,459 冊)

#### テーマ・活動のねらい等

【テーマ】複合化、空間づくり

【活動のねらい】

- 「図書館機能」を基盤として、「ミュージアム機能」、「文化活動・交流機能」、「アカデミー機能」の 4 つの機能を融合した複合施設として、館内資料をはじめ、千代田区の文化資源等幅広い資料情報資源を相乗的・一体的に活用し提供する。

#### 取組・活動の概要

- 日比谷図書文化館は、緑豊かな日比谷公園内に位置し、周辺は丸の内や霞ヶ関など政治・経済の中核機能が集積するとともに、江戸城跡・皇居や近代の歴史的建造物などの文化遺産を有しており、首都東京の中心における文化拠点というべき地域特性を持っている。
- このような立地条件や文化的特性を踏まえ、出版物に捉われない広範な文化資源の発信拠点を目指す図書館として位置づけ、従来の図書館の枠にとらわれない複合施設として、伝統ある旧都立日比谷図書館のサービスを継承、発展させる。

#### (1) 図書館機能

- 立地の特性を踏まえ、「ビジネス情報」、「アート情報」、「地域情報」を柱とした資料収集を行っている。
- ビジネスユーザーのセカンドオフィスとして、パソコンやデータベース利用等もできる環境を充実させている。
- 時節に応じた様々なテーマの図書展示のほか、館内施設で開催される特別展示や講演会等の関連図書展示を行うことで、館内の回遊性を高めるとともに、補完する情報を提供し、利用者の学びを深めている。

#### (2) ミュージアム機能

- 「常設展示室」では、千代田区の原始・古代から近代に至る歴史を文化資源や映像を活用して解説している。また、「特別展示室」では、期間ごとに歴史文化に関する学術的なテーマから芸術的なテーマなど多彩な文化情報の展示を行っている。
- 明治・大正期の官僚であった内田嘉吉氏が遺した『内田嘉吉文庫』のほか、江戸・東京の地域資料など貴重な古書を直接手に取ることができる「特別研究室」を設け、その資料を紹介するテーマ展示も開催している。

#### (3) 文化活動・交流機能

- 各種活動のための拠点として、ホールや会議室を設け提供(有料)している。
- 「特別研究室」内に併設する「特別研究席」では、ネット環境を整えた上質な学びの空間を提供(有料)するとともに、利用者同士の交流や勉強会(モーニングセミナー)の開催も行っている。
- 文化的な環境のもとでリラックスできる場として、貸出手続きをせずに図書館資料が閲覧できるレストランやカフェを設けている。

#### (4) アカデミー機能

- 「江戸・東京」「本」「スキルアップ」「芸術」「センスアップ」の5つのカテゴリーによる様々な講座、講演会、ワークショップなど（日比谷カレッジ）を開催している。
- 近隣ミュージアム等機関との連携協力のもと、展示関連イベント等を開催している。



講演会



特別展

#### 取組・活動の工夫や特徴

- コンソーシアム形式の指定管理者による運営により、それぞれの独自の企業ノウハウやスキルを活かし、専門的人材の確保や効率的な人員配置を行い、知的好奇心を掻き立てるような企画を展開していく。

#### 取組・活動の成果や今後の展望

- 東京都立日比谷図書館が平成21年3月で閉館し、平成21年7月に千代田区に移管された。その後、改修工事を行い、平成23年11月に千代田区立日比谷図書文化館としてリニューアルオープンするまでの2年半ほどの間に、都立時代の利用者の多くは離れ、また、新施設の認知度は低く、利用者が伸び悩んだ。
- そこで、魅力ある事業を展開するとともに、広報活動も積極的に行うことで徐々に認知度も上がり利用者も増加していった。
- 平成25年には、四つの機能を有した複合施設として、それぞれの分野で新しい事業・業務展開に意欲的に取り組んでいる点が評価され、Library of the year 2013 優秀賞を受賞できたことも、認知度上昇につながった。
- さらなる発展を図るため、年2回の利用者アンケートのほか、イベント毎のアンケート調査を実施するなど、常に利用者の満足度やニーズの把握に努めている。
- 東京都立日比谷図書館の歴史と伝統を引き継ぎつつ、時代やニーズに対応した事業・サービスを展開し、都心千代田区にふさわしい“知の拠点”を目指す。